

H ostelling Magazine

6/20
Summer
2015

詩集を片手に一人
ユースホステルを巡った日々が、
僕の研究の原点です。

マサチューセッツ工科大学
MIT メディアラボ 副所長 石井 裕氏



Hostelling Magazine × 地球の歩き方

New Zealand 

クライストチャーチ / レイク・テカポ / ミルフォード・サウンド

Pick up 世界で唯一!?

海を自走する船のユースホステル

Youth Hostel Pick up

忘れられない出会い
体験が生まれる場所

湯布院カントリーロードユースホステル

2015 Summer 体験型アクティビティ満載

Event information

付録 国内 200ヶ所以上のユースホステル情報を網羅
ユースホステルマップ

photo by Junichi Otsuki

この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。





ヤマザキ

**自由型
ランチ**

**自由型
ランチ**

**自由型
ランチ**

ランチパック

ランチパックの全ラインナップはWEBでチェック♪
 PC www.yamazakipan.co.jp/lunch-p/ モバイル <http://m-ybrand.jp/lunch-p/> 公式Facebook <https://www.facebook.com/lunchpack.jp>

RAIL EUROPE

www.raileurope.jp

ヨーロッパ旅行なら、 そして、鉄道の旅ならレイルヨーロッパで！



※ローマ、ナポリ、フィレンツェ、ミラノといった主要都市間を結ぶイタリアの高速列車イタロ (Italo)

Enjoy Europe Travel by Train!

次の旅行は、ヨーロッパの鉄道に乗る、すてきな旅にしませんか？

レイルヨーロッパでは、ヨーロッパにおける各種鉄道パスおよび区間乗車券を取り扱っております。公式ホームページでは、それらがお手頃な価格で簡単にリアルタイムで予約できます。オリジナリティーあふれるあなただけの旅を、レイルヨーロッパはサポートいたします。

¥2,000 OFF

キャンペーンコード
JYH2000JPY

レイルヨーロッパのホームページでキャンペーンコードを入力すると5,000円以上のチケット・パスをご購入の方はもれなく2,000円割引！

【ご利用方法】2016年12月31日までにご予約いただいたチケットやパスの合計金額から割引となります。他のキャンペーンコードとの併用、または払い戻しはできません。キャンペーンコードをメモするなど控えて頂き、ご購入時にご利用ください。ショッピングカートの画面でキャンペーンコードを必ず入力してください。キャンペーンコードは変更/払い戻しの手続き後には適用されません。

その他、お得なキャンペーンも実施中！

レイルヨーロッパ

検索

Facebook



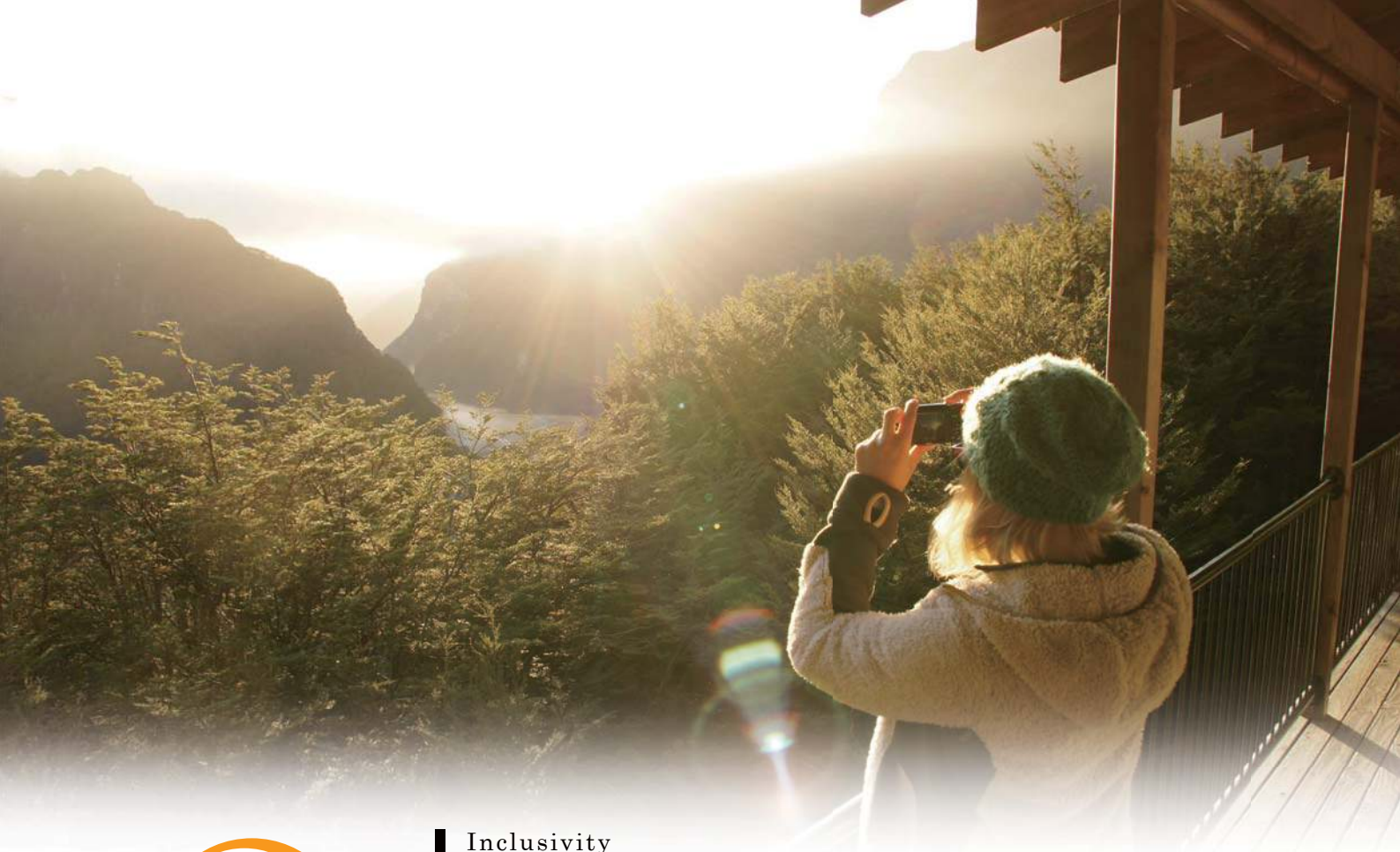
パス・チケットの予約・購入 公式サイト：raileurope.jp

最新のヨーロッパ鉄道情報

ヨーロッパ鉄道旅行ガイド：railguide.jp

公式 Facebook

facebook.com/raileurope.jp



Vision

Principle and Philosophy

Inclusivity

世界を超えて

Learning and Understanding

考えよう

Sustainability

僕らと子ども達の未来のことを

日本ユースホステル協会はユースホステルのビジョンに基づき、日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

Line up

インタビュー

MITメディアラボ副所長 石井 裕 氏

「詩集を片手に一人

ユースホステルを巡った日々が、

僕の研究の原点です。」…………… P2

Youth Hostel Pick up

忘れられない出会い 体験が生まれる場所

湯布院カントリーロードユースホステル…………… P6

Hostelling Magazine × 地球の歩き方

New Zealand

クライストチャーチ／レイク・テカポ／ミルフォード・サウンド

Pick up 世界で唯一!? 海を自走する船のユースホステル…………… P10

Event Information…………… P14

※本紙の情報は2015年5月1日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。

発行所 一般財団法人 日本ユースホステル協会 編集・発行人 水野 幸 TEL.(03)5738-0546 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター内

※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。制作・印刷製本/サンメッセ株式会社

Hostelling Magazine インタビュー vol. 1

ユースホステル運動は1909年に、青少年の健全な成長を願ってドイツの小学校教師リヒャルト・シルマンによって始められました。以後100年以上にわたり、多くの人が旅先で出会った人々や土地の文化と交流し、多くの学びを得てきました。今回インタビューさせていただいたのは、世界先端の研究を進めるMIT(マサチューセッツ工科大学)メディアラボの副所長石井裕先生です。「青春時代に詩集を片手に各地のユースホステルを巡ったことが、その後の人生に大きく影響している」と語る石井先生。ユースホステルと関わりの深い“一人旅”が持つ魅力を世界の第一線で活躍する石井先生に語っていただきました。

MITメディアラボ副所長

石井 裕 氏

Photo / Junichi Otsuki

詩集を片手に一人 ユースホステルを巡った日々が、 僕の研究の原点です。

己と対峙し、感動を詩で表現しながら
旅をすることで、
その経験も深まります。

松尾芭蕉、若山牧水、宮沢賢治をはじめ、多くの歌人たちは旅をしながら詩を詠みました。彼らは一人旅を通して、自分自身と深く対峙し、魂の琴線に触れた心象を、詩として表現し、私たちに遺してくれました。

最近ではSNSが人気ですが、Twitterはある意味で“現代の詩人”の新しい表現メディアになっています。たとえば「詩の礫(つぶて)」は、福島の詩人・和合 亮一(わごう りょういち)さん@wago2828が東日本大震災で被災した直後からTwitterで発表を開始した新しい形式の詩です。実験的に彼が感じたことを、そのまま詩として連続して投稿していました。詩の世界ではTwitterが既に新しいメディアとして浸透しています。文字数が140字に制限されているため、言葉を徹底的に吟味し削ぎ落とすことで、俳句のような役割がTwitterにはあるからでしょう。

詩で思いを表現しながら、あるいは風景を水彩スケッチしながら旅をすることで、その価値も深まります。最近の旅は、レジャーを目的とした消費としての旅が多くなりました。受動的なレジャーが目的であれば、旅に出るより、手軽に楽しめる手段が格段に増えた家や街を出る必要はありません。しかし、どれだけ自分が能動的な表現者・探求者でありうるかが、青春期の人間形成にはとても重要です。基本的に探求者でなければユースホステルを使って一人で巡る旅の価値というのは、なかなか理解されないのではないかと思います。



1980年代前半、NTT 電気通信研究所に勤めながら、休日にはユースホステルを使って旅をしていたころ

一人旅は、 人間形成の根幹

時代の変化でしょうか、日本ではユースホステルが少なくなってきたようで非常に残念です。それは多くの人が自己を探求する一人旅の必要性を感じなくなってきたからかもしれません。しかし、青春時代に一人旅にも出ずに、自我の確立は難しいと僕は思っています。旅の必要性は、普遍的なものです。ただし、それはPassive(受け身)な旅やエンタメ(悦楽)の旅でなく、自分の「道」を探す求道の旅です。

僕が旅を始めた理由は、そういう求道的な世界に昔から憧れていたからです。特に詩人。宮沢賢治、立原道造、若山牧水、種田山頭火、石川啄木らの詩人たちから影響を受けました。彼らの詩集を手に、周遊券(国鉄発行のものをはじめ、世界各地で提供されていた周遊地を自由に訪れることができる券)で行ける所はほとんど行きました。日本国内はもちろん、ユーレイルパスを使って西ヨーロッパも一人旅しました。

各地でユースホステルや安宿に泊まるわけですが、ドミトリ(相部屋)形式で8人部屋、というようにひとつのスペースを共有するタイプで、いやでも会話が生まれます。つまり、出会いと会話を促す触媒があるわけです。ユースホステルを通して、深いところで共鳴できる人生の友人が何人もできました。

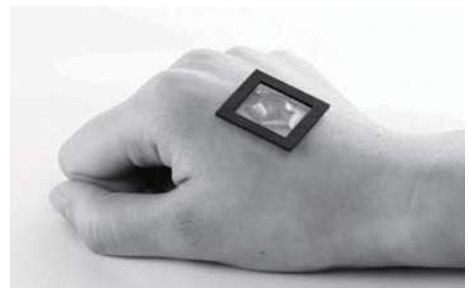
旅の中で出会う友人というのは特別です。日常ではない場所です。夜行列車の中で出会う。あるいは青函連絡船のデッキで出会う。北海道の周遊券を持って周ってれば、何日かしたらまたどこかで出会います。ある種、同じループの中のどこかにいるわけです。僕は北湯沢ユースホステルに何度も行きましたが、北湯沢には正月になれば必ず来ている常連がいる。ですから、そういった意味で一過性の縁ではないということが大きな違いですね。

■ 100年後を見据えて

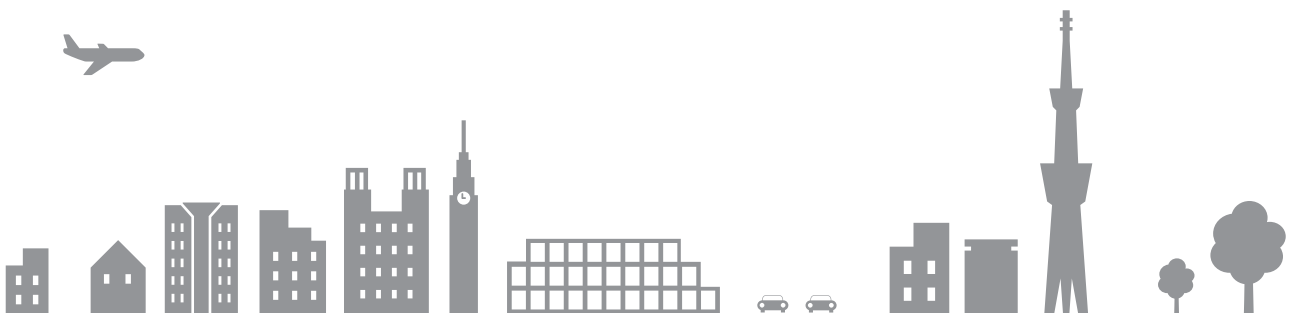
石井教授の現在の研究分野は「ラディカル・アトムズ」。「急進原子」とも訳されるこの分野はスクリーンの裏側に捕らえられたピクセルを自由に動かすように、原子レベルで物質のアクションをプログラムするという概念。100年後を見据えた理念としての概念で、近年周囲の人々の動きに応じて変形する机(TRANSFORM)や、納豆菌をナノアクチュエーターとして利用した変形する有機的なフィルム(bioLogic)の発表で、その重要性が国際的に認知されつつある。



【TRANSFORM】人が近づくと湖のようにテーブルさざ波立つなど、インタラクティブに動くテーブル。デザインとテクノロジー、静と動、自然とマシンという、3つの対概念の止揚から生まれる重層的なストーリーが内包されている。



【bioLogic】生きている有機体(納豆菌)を材料としてつくられた、変形を構造的印刷技術によりプログラムできるフィルム。例えば、体温や湿気に反応して自身を変形させる「第二の皮膚」を作ることができる。電子的に制御ができ、デジタルの世界とつなぐこともできる。





時間と体力があり、感性が研ぎ澄まされた若い時に、 言葉も文化も違う世界を一人旅し、自分と対峙すべき。

豊かになってしまった日本の若者が求める旅の宿というのは、個室で、プライバシーがあって、Stranger(他人)とも出会わない、そんな閉じた快適空間のように思えます。そうした傾向は世界のそれとは随分違っているように感じます。他国の若者は多くの文化圏を旅してきている。そこで自分と対峙する。人間としても、大きく伸びますよね。

同じ旅でも、二人以上の旅と一人旅というのは違います。一人だと、自分と対話するしかないわけです。周りに知らない人がいれば、その人と話をする。たとえば、青森の夜行列車に乗った時はりんごの行商のおばさんがりんごをくださったりとか。方言で内容が聞き取れないこともありましたが、彼女達との会話というのはこちらが一人でいたからこそあったわけで。そういう意味では己との対話。そして初めて出会う人との対話。その対話の機会を大切にするという意味で、やはり一人で旅するのが一番いいと僕は思います。

そうした情熱の根源は知的な意味での飢餓感、空腹感です。友達がいて、コンビニのおでんがいつでも食べられて、日本語が通じてというComfort(快適)ゾーンにとどまっている限り自分の世界は広がりません。

特にこれからの世代にとっては、若い時の海外雄飛が大事だと思います。言葉も通じない、文化も違う。そういう世界に自分を放り込んで自分と対峙する。世界と対峙する。そして友人を見つける。一緒に旅する。そういう経験はお金がなくとも、エネルギーと時間のある若い時に絶対すべきだと思います。それが長い人生で一番大切な財産になると僕は思います。

「出会いと別れを繰り返しながら、何故一人旅を続けるのか？」そう自分に問い続けながら、ユースの旅を続けた青春時代。その答えを、若山牧水のこの詩に見つけた時の喜び、今でも鮮明に覚えています。

「終りたる旅を見かへるさびしさにさそはれてまた旅をしそおもふ」



写真提供: 加藤恵樹氏

あずみ野ユースのホステラーたちと一緒に道祖神巡り(1982年春)。

上段右から4番目が石井先生。

【プロフィール】

いしひ ひろし
石井 裕 --- MITメディアラボ副所長

1956年生まれ。1995年にMITメディアラボ教授に就任。「現実世界で手で触れて直接操作できる“モノ”の世界と、サイバースペースのデジタル情報をいかにシームレスに統合するか」を主要な研究テーマとする。タンジブル・ユーザ・インターフェース(デジタル情報を有形化して直接操作を可能とするユーザインタフェース技術)の研究が認められ、2001年にMITからテニュア(終身在職権)を取得。2009年よりMITメディアラボの副所長に就任。現在、原子レベルで物体をプログラムする「ラディカル・アトムズ」を提唱し、研究を行っている。

Twitter: @ishii_mit

facebook.com/ishii_mit

http://tangible.media.mit.edu/